

2026/3/01

長岡京市みんなの未来をつくるまち活補助金活動発表

西山・森の教室と自然素材のものづくり

長岡京市里山再生市民フォーラム

# 長岡京市里山再生市民フォーラム

「四季折々の自然豊かな西山の里山再生」をめざし、  
里山の整備活動を続けています。

## 里山の整備

- 1) 西山キャンプ場周辺の市有地の森林整備
- 2) 鈴谷地区の竹林整備
- 3) 西代地区の里地整備

## 市民と西山との交流

- 4) 小学生の里山体験支援
- 5) 間伐材などを使った子ども工作教室、大人のクリスマスリースづくり
- 6) 里山講演会



森林整備



里山講演会



小学生の里山体験支援



竹林整備



里地整備



リース作り教室

## 解決したい地域課題とその背景

- 西山と森林のありがたさが長岡京市民（特に子供たちやファミリー）に知られておらずまた実感していない。
- 子どもたちが日頃から自然、木、木の実に触る機会が少ない。
- 中高齢層にも手軽に自然素材でものをつくる機会をつくりたい。

## 解決するための事業

➤ 西山・森の教室…30分

山、森林の役割のうち環境維持、水源涵養、生物多様性を子供にもわかるようにまとめて話す。子供たちが観察したり考えながら実施できるようにする

➤ 自然素材を使ったものづくり教室… 90分

木の枝や実を使った作品、クリスマスリースづくりなど自然素材を触って学び、つくる機会を提供する

➤ 里山講演会 里山再生に関連した大学研究者の講演会… 120分

西山ホテルの家で、午前中、同時に行う。

## 到達したい状態や目標

西山・森の教室・・・森林の役割を知ることにより、小さいころから森に関する親しみと関心を高め、西山のイベントに参加するファミリーを増やし、森のかけがえのない役割を理解する市民を育成する。

自然素材を使ったものづくり教室・・・自然素材の手触りを知り、ひとつひとつ違う作品を作ることによって自然に親しむファミリーを増やす。

## 広報の方法

市民広報に掲載 チラシの配布配架、小学校への依頼、サポセンホームページによる集客

## 収入を得る方法

子供の教室は500円、大人のリース教室は1000円の参加費  
工作教室の材料を使ったリースや正月飾りを環境フェアなどで販売

## 今年度のまち活事業

第1回 7月27日(日) 夏休み西山・森の教室と工作教室  
講演30分 工作90分 子供と保護者対象 15名 参加費 500円

第2回 11月30日(日)クリスマスリースづくり教室  
講演30分 リースづくり120分 大人対象 20名 参加費 1000円

第3回 12月20日(日)西山・森の教室と正月飾り教室  
講演30分 工作90分 子供と保護者対象 15名 参加費 500円

第4回 3月7日(土)西山・森の教室講演会  
成人一般対象 30名 無料  
講師 京大 杉山先生を予定 講演と質疑 120分

長岡京市里山再生市民フォーラム主催

2025

## 西山・森の教室と自然素材のものづくり

7月27日(日)10時～12時

西代里山公園・西山ホテルの家

1) やさしい森の木のお話 30分    2) 魔法の木、夢の木、いのちの木 90分



## 第1回西山・森の教室と自然素材のものづくり (テーマ・わたしの木)

2025, 7, 27 (日) 10時~12時 西山ホテルの家

親子8組 (うち子ども10人) が参加しました。スタッフ 10名

30分は西山の木のお話です。

スギ、ヒノキ、シイ、コナラ、フジ、などの名前を覚えてもらいました。

90分の工作のテーマは私の木です。

3本の枝をゴムと糸で結んで立てること、草のボールをつくるまでが大変でした。



2025年7月28日



●小枝や草を組み合わせるミニチュアの木を作る親子●小学生の親子約20人が参加した工作教室(長岡京市奥海印寺)

# 草や枝でミニチュア木

## 長岡京で工作教室 親子ら20人挑む

長岡京市奥海印寺の西代里山公園で、小枝や木の実など自然の素材を使った工作教室が27日にあった。小学生の親子約20人が、地域に生える草や木の枝を組み合わせて、自分だ

けのミニチュアの木を作って楽しんだ。

西山の森林再生に取り組む「長岡京市里山再生市民フォーラム」が主催した。代表の吉岡洋さん(81)が、広葉樹と針葉樹の違い

や里山を守るために同団体などが行っている活動を説明した後、参加者は小枝や草を使ってオリジナルの木を作る工作に取り組んだ。

たこ糸などで3本の小枝を束ねて三脚のような台を作り、発泡スチロールの球に乾燥させた草を巻き付けたものを好きな場所に取り付けた。針金や接着剤

を使い、木の実や松ぼっくりで枝や球を飾った子どももいた。

子どもたちは真剣な表情で枝や草を組み合わせ、集中して飾りを作っていた。長岡京市滝ノ町の加藤誠一朗さん(9)は「自然のもので作るのが楽しかった。本物の木みたいに見えるなんて驚いた」と笑顔。吉岡さんは「西山を身近に感じてほしい。子どもたちが大人になったとき自然を守る活動に参加してくれるといい」と語った。(森下晃行)

## 西山・森の教室と自然素材のものづくり NO.2

11月 30 日(日) 9時30分～12時

西代里山公園・西山ホテルの家

1) 西山・森の教室 30分

クリスマスの森の話

フォーラム代表 吉岡洋

2) 自然素材のものづくり 120分

クリスマスリースづくり

花のアトリエ Y'sガーデン

八木 麻里(やぎまり)先生



## 1 1 / 3 0 森の教室とクリスマスリースづくり

### 「クリスマスと森」の講演

なぜ 暖かいパレスティナで生まれたキリスト誕生祝祭に  
寒い北国の植物で作られるツリーやリースが飾られるのか

### 「第24回クリスマスリースづくり」

今回作成のリースは ハーフムーンスワッグ といいます  
西山で採集された植物が使われています

ナンキンハゼ、ノイバラ、センダン、フジのつる  
カラスウリ、ヒノキの葉、シャリンバイ、ワタの実



## 自然素材でXマスリース

長岡京で教室 木の葉や実使い制作

長岡京市奥海印寺の西代里山公園で30日、

地元の素材を使ったクリスマスリース作りの教室が開かれた。里山整備に取り組む団体が開き、自然の恵みを豪華にあしらったオリジ

ナルの一品を市民ら約20人が作り上げた。

西山の竹林や森林の整備に携わる「長岡京市里山再生市民フォーラム」が活動を知ってもらおうと企画。吉岡洋代表がクリスマスと



作ったリースを手に記念撮影する参加者ら（長岡京市奥海印寺・西代里山公園）

森との関わりや、リースの飾りの意味を紹介した後、地元でフラワーアレンジメント教室を開く講師が半円形のリース作りを指導した。

材料はヒノキの葉やノイバラの赤い実、セリシバの黄緑色の実、綿など10種類。ほぼすべてを栽培したり、近くの山や河川敷で集めたりして用意した。

新聞紙を巻いて太くした半円形の土台に、束ねた葉や実を針金で固定し、オレンジ色のカラスウリや松ぼっくりを針金で取りつけていった。

教室は今年で24回目を迎えた。参加費は千円と手ごろなだけに毎年すぐに満員になるといふ。参加者は「一番大きな松ぼっくりを真ん中に配置すると見栄えがいい」「実は垂れ下がるように付けるとおしゃれ感が出ます」といったアドバイスを聞きながら、素材の配置を楽しんでいた。

参加者は「バランスを考えるのが面白くて夢中でした」「身の回りの素材で、ここまで華やかにできて満足です」と感想を話していた。（高橋道長）

長岡京市里山再生市民フォーラム主催

2025

## 西山・森の教室と自然素材のものづくり

12月20日(土)10時～12時

西代里山公園・西山ホテルの家

1) 里山とお正月 30分

2) ミニチュアの正月飾りづくり 90分



2025年12月20日（土） 森の教室・正月飾り

講演会「里山とお正月」

親子連れなど14人が参加 ウメシロップの暖かいジュースを飲みながらお正月に使われる植物のお話を聞きました。

正月飾りづくり

里山で採取した松、竹、梅などおめでたい植物を使って室内用の正月飾りを作りました。

大きなマツボックリに赤い球をノリづけするところは小学生もうまくできました。

竹、梅をワイヤーで固定するのは大人の助けが必要でした。緑色の松や竹、赤い球やフェルト、赤・銀の水引などで彩りよく仕上がり皆さん大満足でした。



月気分

# 京都新聞洛西版 西山の植物で飾り作り

2025.12.21

長岡京 親子ら、竹やマツの葉使い



正月飾りの完成品。竹とウメを組み合わせて華やかに仕上げた

西山の竹林や森林の整備に携わる「長岡京市里山再生市民フォーラム」の主催。「四季折々の植物を使って季節を感じてもらいたい」と企画した。正月飾り作りを催すのは今年で2回目という。

西山周辺の植物を使って正月飾りを作る教室が20日、長岡京市奥海印寺の西代里山公園で開かれた。親子連れら14人が参加し、新年を盛り上げる華やかな作品を作り上げた。

同フォーラムの吉岡洋代表が正月と関係の深い植物と里山の関係などを解説した後、市民グループ「西山ものづくり・たからばこ」の大藪美知子代表が飾り作りを指導した。

材料は、同フォーラムが整備する放置竹林で伐採したハチクや、西山地域などで採取したマツボックリやマツの葉、ウメの木、ナンキンハゼなど。参加者は気に入った材料を念入りに選び、制作に取りかかった。

竹とウメの枝をワイヤで固定し、赤い実を付けたマツボックリや、赤と金の水引、ナンキンハゼで飾った。「マツは手のぬくもりでやさしく曲げると曲がってくれる」「竹にマツボックリを乗せるとバランスが良くなる」とアドバイスを受けるながら、個性が光る作品に仕上げた。

参加者は「配置が難しかったけれど、とてもお気に入りの作品ができた」「華やかでいいことがありそう。来年が楽しみになった」と話していた。

(昆陽和奏)

水引やマツボックリの位置などを試行錯誤しながら作品を作る参加者(長岡京市奥海印寺・西代里山公園)

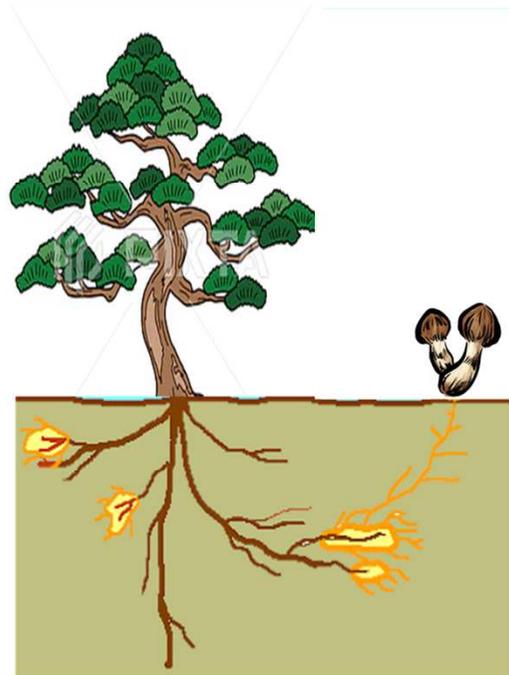


主催：長岡京市里山再生市民フォーラム 後援：西山森林整備推進協議会

第21回里山講演会

入場無料

## 菌根菌が作る森



日時：令和8年3月7日（土）10時～12時

講師：京都大学 助教 杉山 賢子（よりこ）先生

京都大学フィールド科学教育研究センター

会場：西代里山公園「西山ホテルの家」

長岡京市奥海印寺西代6-2 電話 075-955-0950

定員：30名申し込み順

## 講演要旨：

我々が普段目にする植物、その多くが「菌根菌」と呼ばれる菌類との共生なしには生きていけないことをご存知でしょうか？菌根菌は宿主となる植物の根に感染し、宿主から光合成産物を受け取る代わりに、土壌中の無機養分を宿主へ供給します。無機養分は植物の成長に不可欠ですが、植物自身はそれを効率的に獲得することができません。そのため、菌根菌がいなければ植物は十分に生育できないことが知られています。加えて、植物は種によってどんな菌根菌と共生できるかが異なります。

そのため、森の管理を考える上では、どこにどんな菌根菌がいて、その菌根菌がどんな植物種と共生できるのかを知ることも重要です。私はこれまで、「どこにどんな菌根菌がいるのか」「森の菌根菌相はどうやって決まっているのか」を研究してきました。

本講演では、初めに菌根菌を含む土壌中の微生物全般について、その種類と機能を紹介します。次に菌根菌にフォーカスを絞り、森の菌根菌相がどう決まっているのか、逆に菌根菌が森にどんな影響を与えているのかについてお話しします。最後に、これらの話を踏まえて里山管理と菌根菌の関連について考えたいと思います。



工作教室の材料を  
使ったリースや  
正月飾りを  
環境フェアで販売



## 次年度以降の事業の展開

### 3年度

- 2年度の反省から事業の定着をはかる。
- 受講者募集方法の改善
- 工作教室の作品の販売などで収益化を図る
- HPによる知名度の向上。スタッフを増員

# 里山は楽しい！



# 里山で遊ぼう！

